

令和元年度

事業概要

(平成30年度実績)

山梨県立こころの発達総合支援センター

目 次

第1部 こころの発達総合支援センターの概要

1	沿革	1
2	施設	2
3	組織図・職員構成	4
4	業務内容	5
5	相談・診療の流れ	6

第2部 業務の実施状況

相談支援

1	相談支援体制	7
2	相談件数	7

診 療

1	診療体制	1 1
2	診療状況	1 2
3	発達障害医療支援体制整備事業	1 4
4	ショートケア	1 5

地域支援

1	市町村療育支援開発事業	1 6
	(1) 幼児集団療育 (2) 成人期集団療育	
	(3) ペアレントサポートプログラム	
2	技術支援	1 9
	(1) 関係者コンサルテーション (2) 市町村療育支援	
	(3) 発達障害者支援センター連絡協議会 (4) 地域支援体制サポート事業	
	(5) 関係機関との連絡調整会議 (6) 会議等への参加	

研修・普及

1	人材育成	2 4
	(1) 子どもの心の診療関係者の研修事業 (2) 発達障害研修事業	
	(3) 講師派遣	
2	調査研究	2 6
3	広報・普及	2 7
	(1) パンフレット等印刷物の発行 (2) 図書及び視聴覚機材の貸出	

第1部 こころの発達総合支援センターの概要

1 沿革

発達障害者支援法第14条及び第19条の規定に基づき、山梨県立こころの発達総合支援センター設置及び管理条例及び同施行規則により設置された。

平成17年4月1日 児童福祉施設や学校等において、被虐待児、発達障害児などによる処遇困難事例が増加する中、発達障害の診断・支援を行うことができる専門機関の設置を県に義務づける発達障害者支援法が施行された。

平成18年4月1日 中央児童相談所内に子どもメンタルクリニックが開設されるとともに、障害者相談所内に発達障害者支援センターが設置された。

平成22年1月～8月 子どもの心の問題・医療等の相談の拡充に伴い、クリニックの機能強化が望まれる中、幼児期から成人期に至るまでの相談・診断等を総合的かつ一体的に支援できる体制整備が求められた。これを受け、子どもメンタルクリニックと発達障害者支援センターの再編に向け、庁内検討会及びワーキンググループが設置され、「子どもメンタルケアセンター（仮称）」の開所について検討が行われた。

平成22年8月～12月 山梨県福祉プラザ改修工事

平成23年1月～3月 センターの開所準備

平成23年4月1日 子どもメンタルクリニックと発達障害者支援センターが統合され、山梨県立こころの発達総合支援センターとして開所。

2 施設

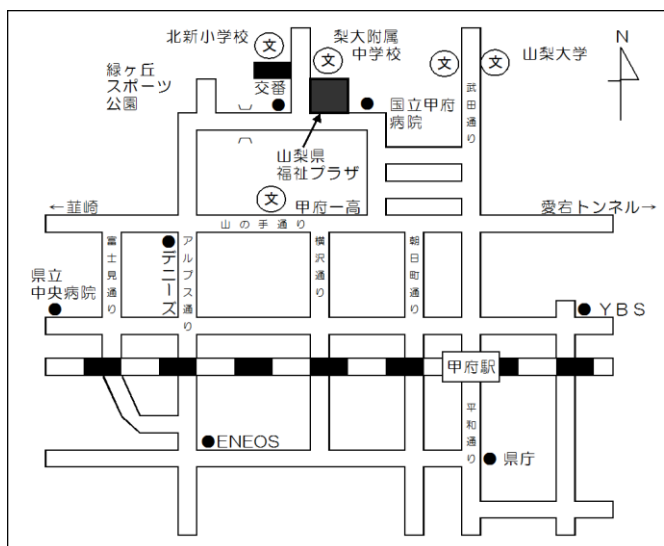
(1) 場所

山梨県甲府市北新一丁目2-12（山梨県福祉プラザ内）

(2) 建物

鉄筋コンクリート造 4階建（2階・3階・4階のそれぞれ一部）

(3) 案内図



《電車》

甲府駅下車 北口から徒歩 20 分

《バス》

甲府駅北口から

【14】 HANAZONO ホスピタル行き

【15】 上帯那行き

【16】 塚原行き

山梨県福祉プラザ前下車

（所要時間 約 6 分）

《車》

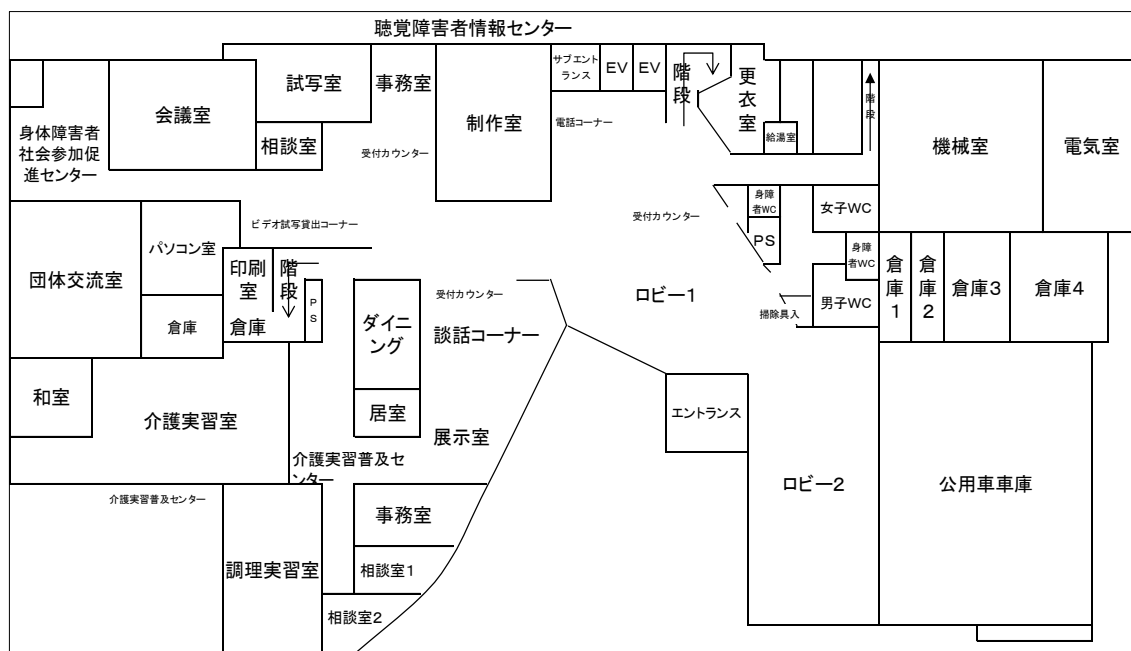
甲府昭和インター利用の場合

アルプス通りを北進

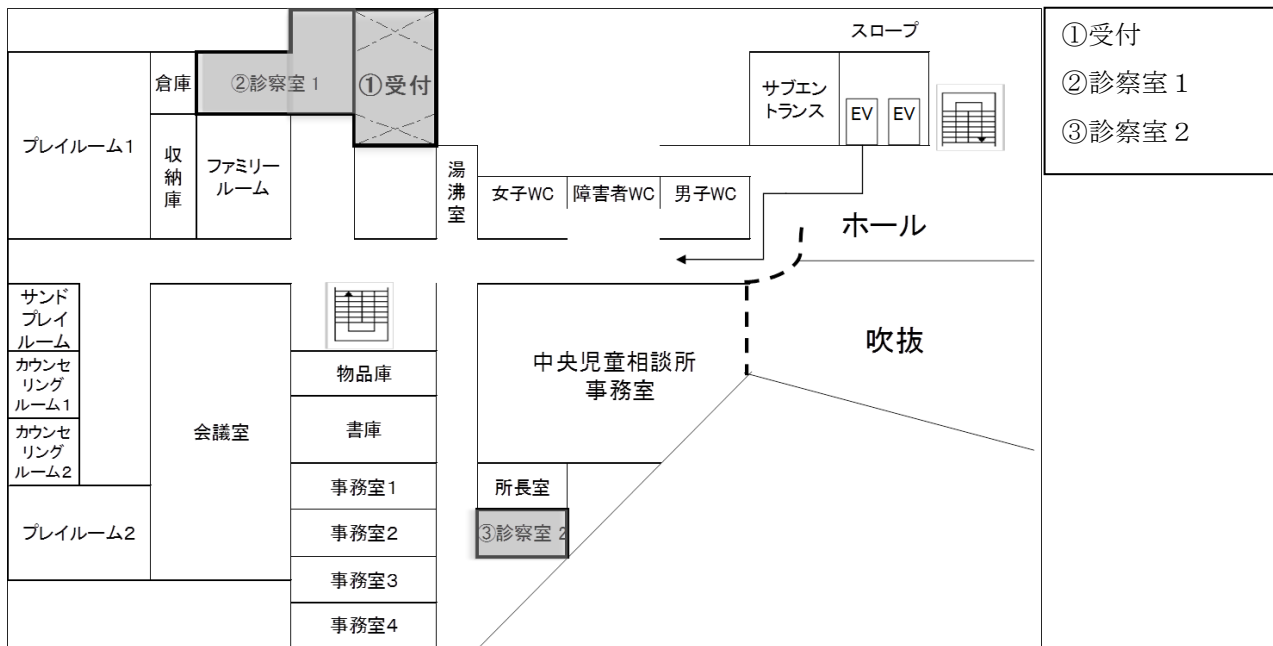
（所要時間約 10 分）

(4) 平面図

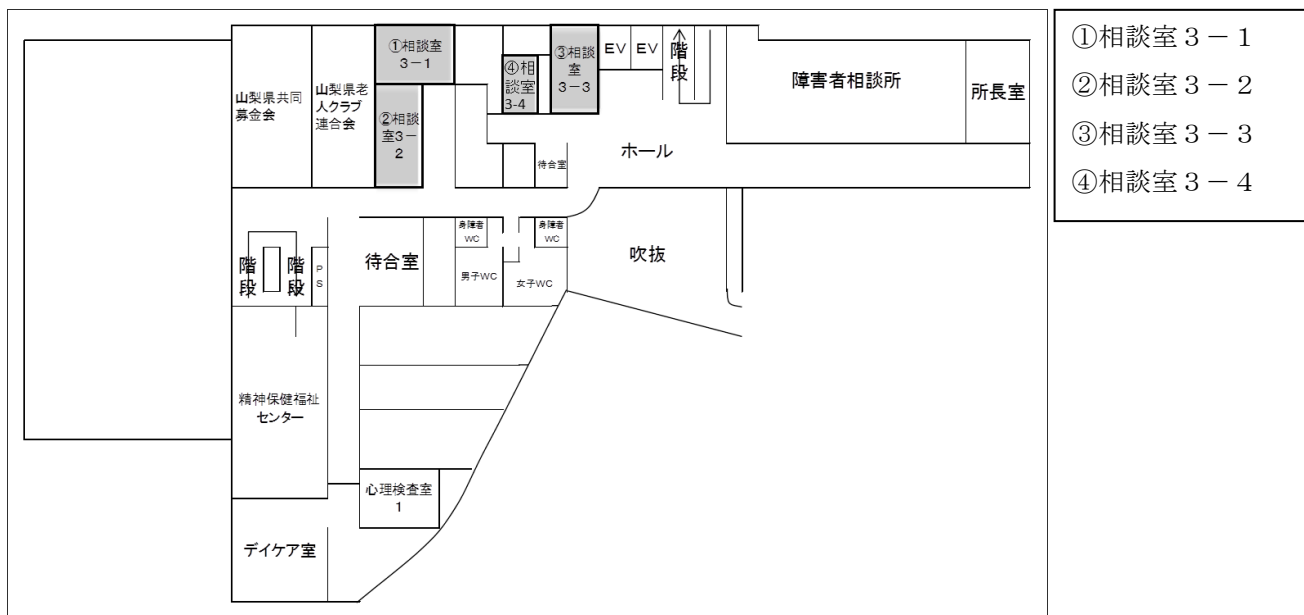
【1階】



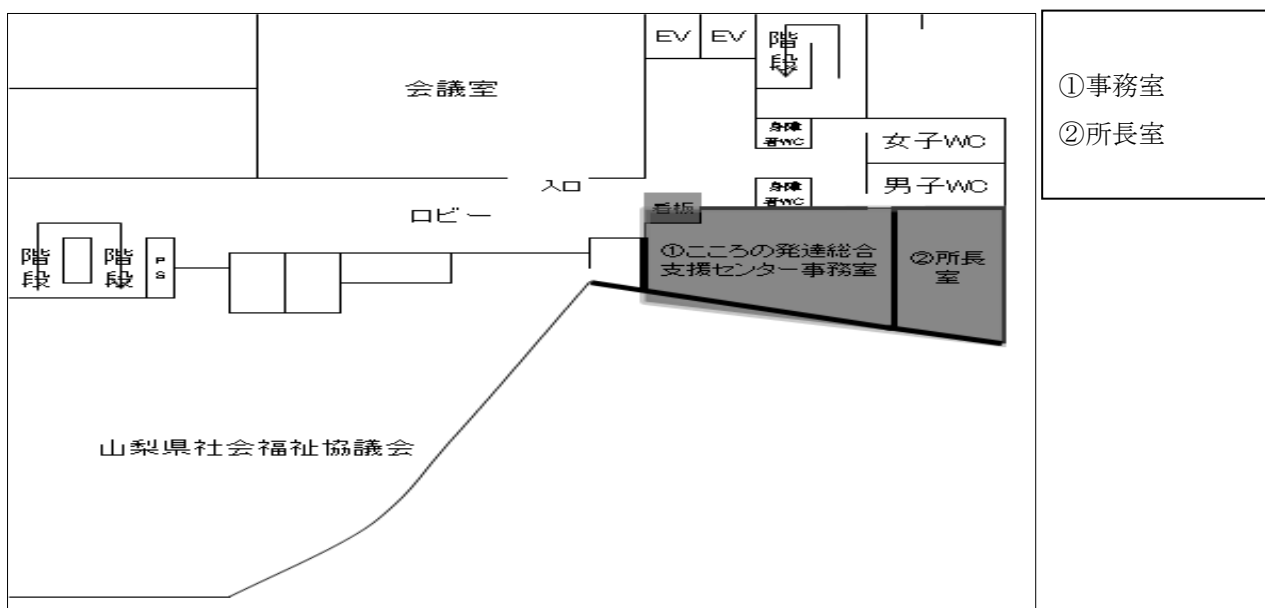
【2階】



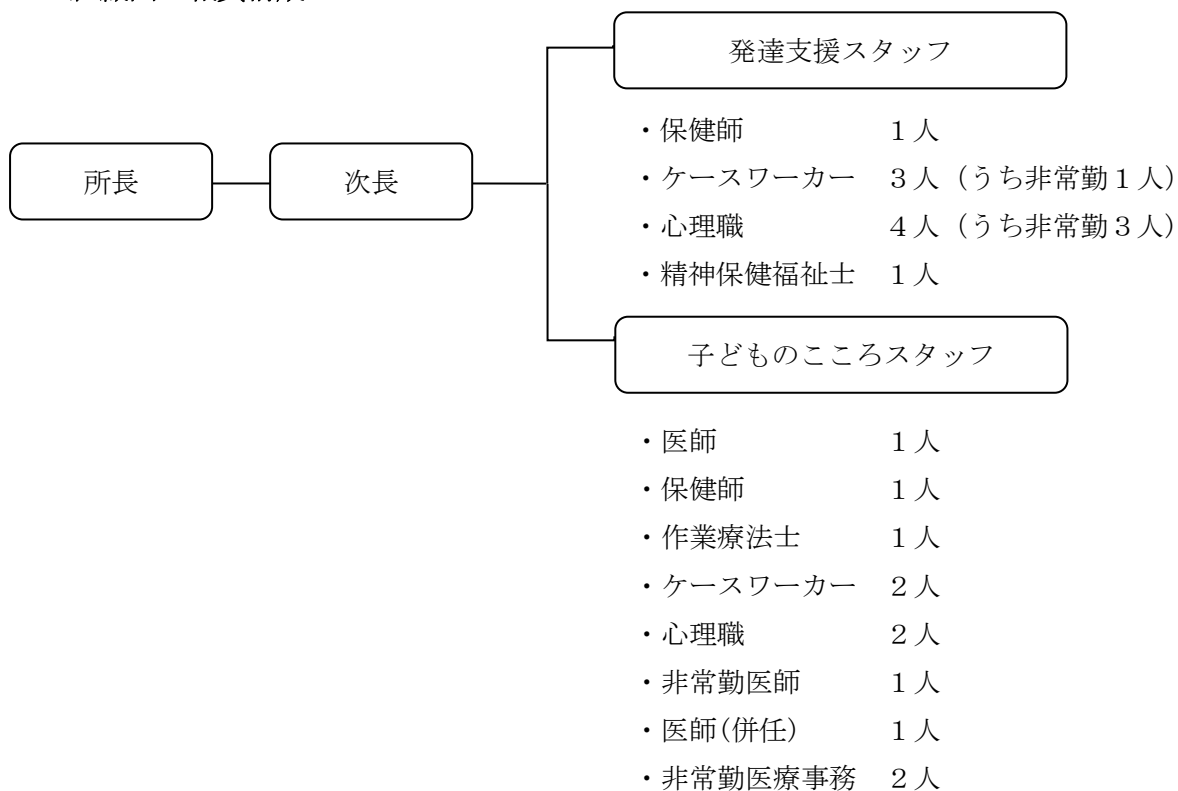
【3階】



【4階】



3 組織図・職員構成



4 業務内容

(1) 相談支援

発達障害や子どものこころの問題について日常生活等に関する様々な相談を行う。

- ・相談
- ・発達支援
- ・就労支援

(2) 診療

発達障害や子どものこころの問題について、精神科医師による診療を行う。

- ・診断
- ・治療
- ・ショートケア

(3) 地域支援

本人や家族がよりよい地域生活を送れるよう、県内の関係機関と連携を図る。

- ・市町村療育支援開発事業
- ・技術支援

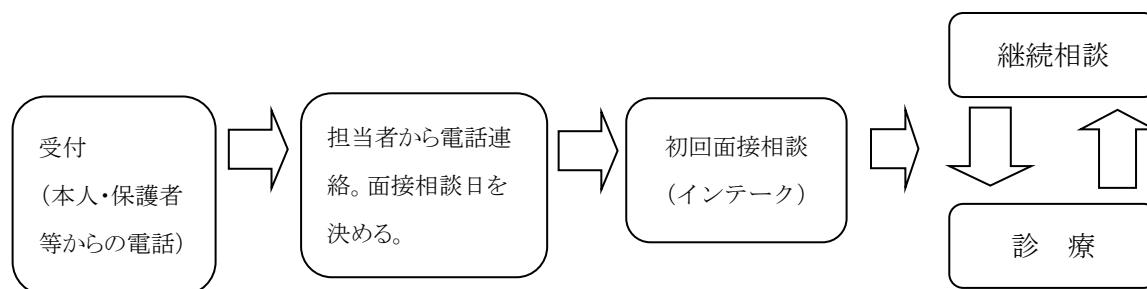
(4) 研修・普及

発達障害や児童期・思春期のこころの問題に関する様々な研修や調査研究を行う。

- ・人材育成
- ・発達障害者支援開発事業
- ・調査研究
- ・広報・普及

5 相談・診療の流れ

本人または保護者等から電話にて受け付ける。その後、担当者から電話連絡により、面接相談日を決める。来所による初回面接相談を行い、その後は継続相談や診療に繋げる。



・対象

18歳未満の子どものこころと発達に関する相談全般及び成人の発達障害に関する相談を受け付けている。

・受付方法

相談・診療は完全予約制。本人または保護者等からの電話で受け付ける。

・相談場所

福祉プラザ内 (月～金)

都留児童相談所内 (水、金、第2・第4木)

富士ふれあいセンター内 (第1・第3火)

・診察場所

(福祉プラザ内) こころの発達総合支援センター甲府クリニック

(都留児童相談所内) こころの発達総合支援センター都留クリニック

・費用

相談は無料。診療・ショートケアは保険診療となる。

第2部 業務の実施状況

相談支援

1 相談支援体制

こころの問題を抱えた児童とその家族や発達障害児（者）とその家族に対して、相談支援、発達支援、就労支援及び情報提供を行うとともに、支援関係者に対して助言やコンサルテーションを通じた支援を行った。

相談は予約制とし、福祉プラザ内、都留児童相談所内、富士ふれあいセンター内で実施した。

2 相談件数

平成30年度の相談件数は4,293件で、このうち新規面接相談は262件であった。

(1) 相談者数

(単位：件)

電話	来所			訪問	関係者コンサルテーション	合計
	甲府	都留	ふれあい			
846	2,390	207	216	79	555	4,293

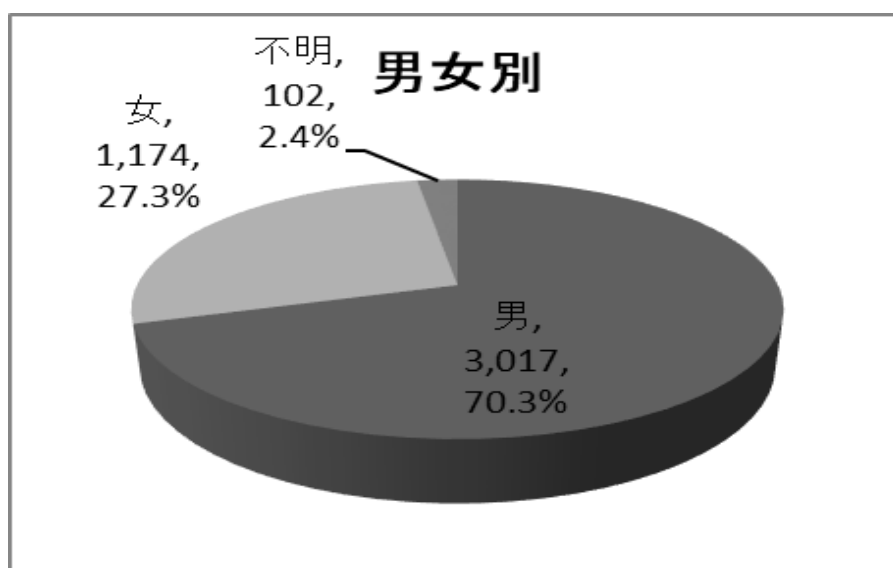
(2) ケース別

(単位：件)

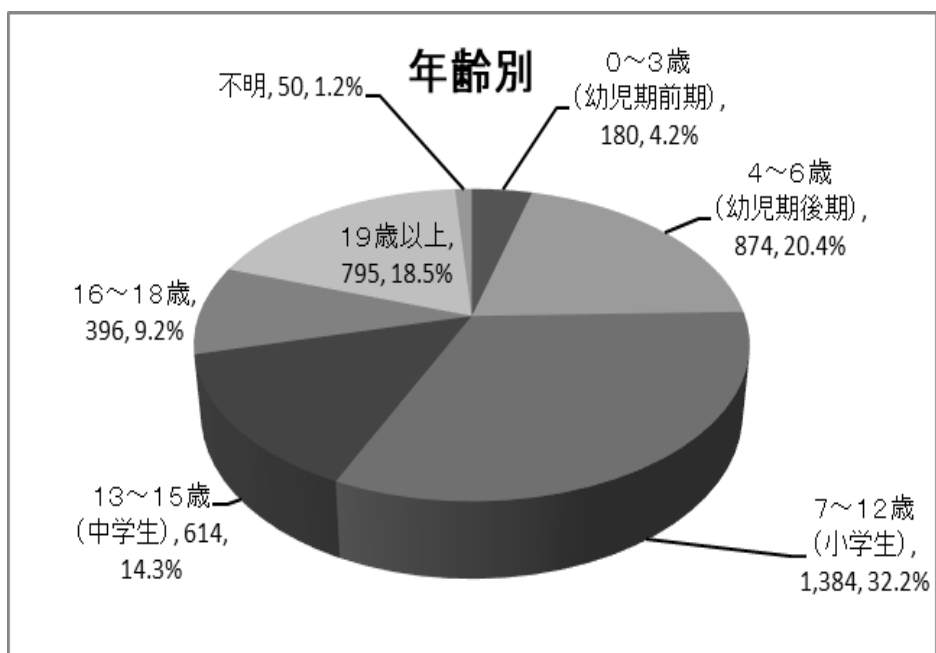
発達障害ケース	子どものこころケース*
3,820	473

*発達障害や発達の問題に関わる相談以外のケース
(発達以外の相談であっても発達障害、あるいは発達の問題があるケースはここには含まない)

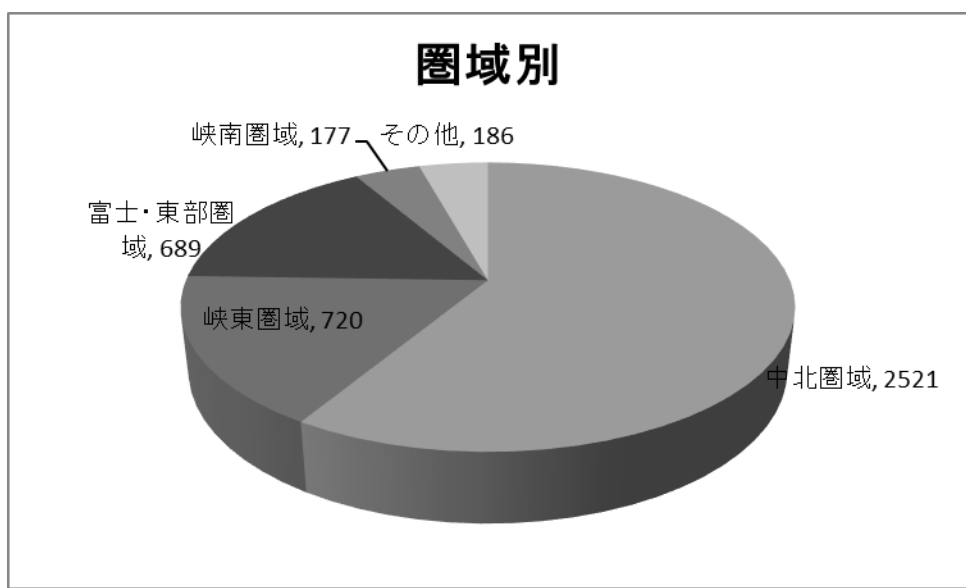
(3) 男女別



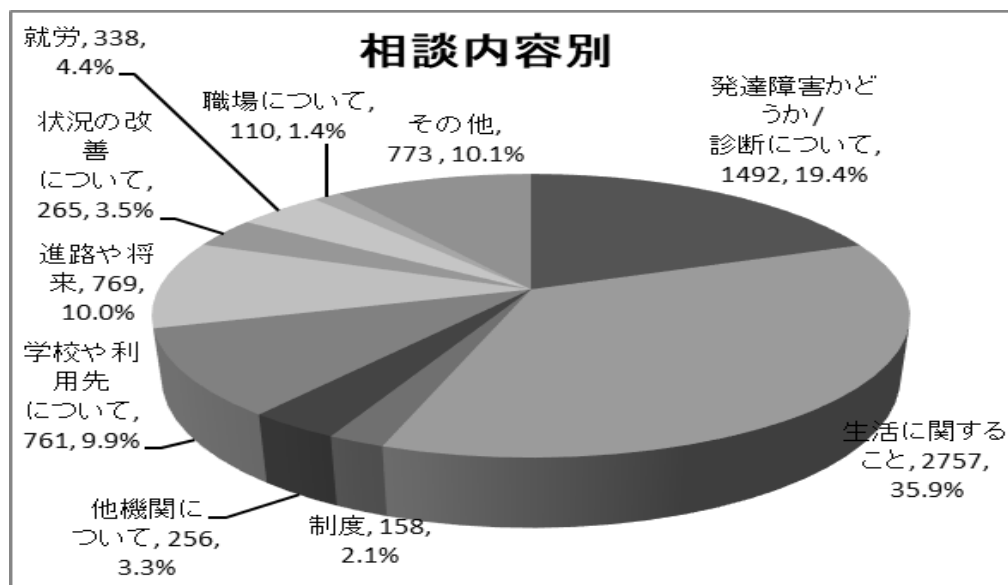
(4) 年齢別



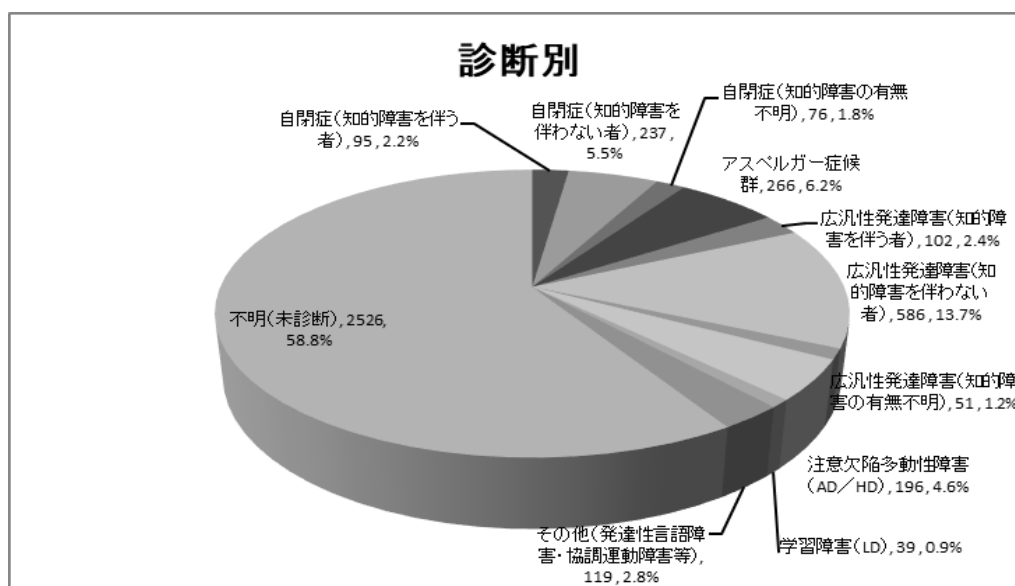
(5) 圏域別



(6) 相談内容別



(7) 診断別



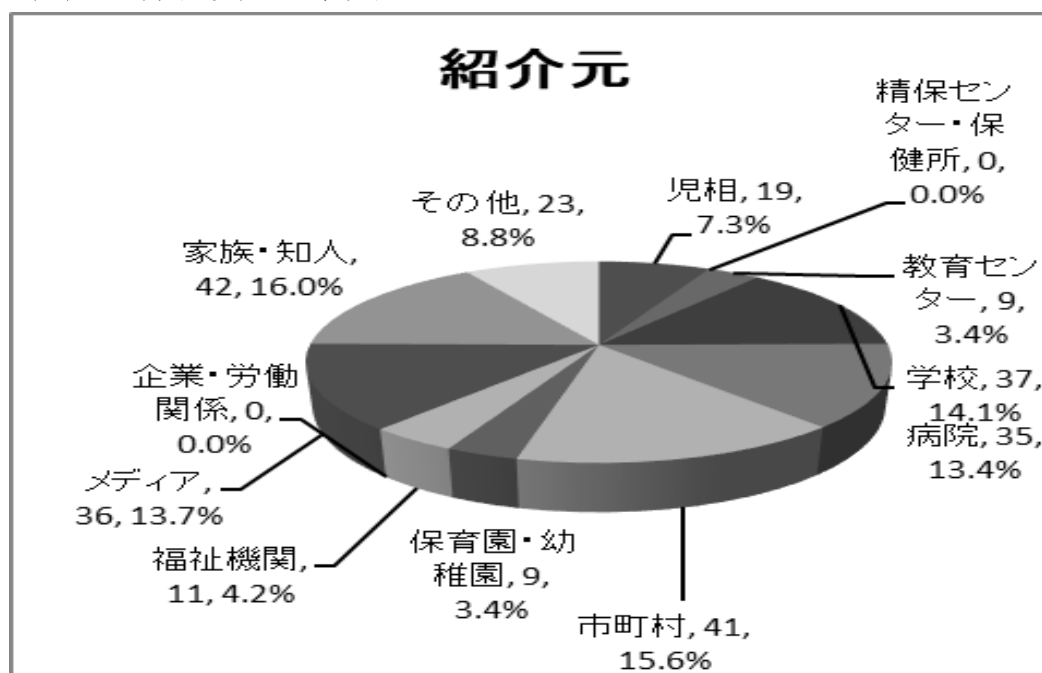
*統計処理に当たって、複数の診断名がある場合には一診断名とし、発達障害の診断を優先した。優先順位は、広汎性発達障害＞注意欠如多動性障害＞精神遅滞＞統合失調症・気分障害＞適応障害・摂食障害である。当所での診察以外による診断名については、本人または家族による申告による。

(8) 新規面接相談の内訳

(単位：件)

		合計	ケース別		男女別		年齢別					
			発達障害ケース	子どものこころケース	男	女	0～3歳	4～6歳	7～12歳(小学生)	13～15歳(中学)	16～18歳	19歳以上
H30年度	甲府	229	195	34	158	71	20	51	88	26	10	34
	都留	21	15	6	14	7		4	7	6	2	2
	ふれあい	12	7	5	5	7	2	2	2	2		4
	合計	262	217	45	177	85	22	57	97	34	12	40
前年度		288	256	32	205	83	34	66	106	45	13	24

(9) 新規面接相談の紹介元



診 療

1 診療体制

平成18年度から平成22年度まで各児童相談所で運営していた子どもメンタルクリニックの機能を引き継ぎつつ、相談部門との連携強化を図ることにより、発達障害の専門医療機関及び子どものこころの診療拠点医療機関として、より質の高い医療の提供を目指し、県内2ヶ所（甲府、都留）で精神科クリニックを開設。予約制で診療を行うとともに、平成24年1月からは甲府クリニックでショートケアを実施した。

また、県内の診療対応力の向上と受け皿の充実を図ることを目的として、発達障害及び子どものこころの診療に携わる他の医療機関との連携・情報交換、研修生の受け入れを行った。

【甲府クリニック】 場 所 福祉プラザ2階
 管 理 者 金重 紅美子
 診療時間 午前9時30分から午後0時30分

	月	火	水	木	金
片山知哉		○		○	
金重紅美子	○				○
上村拓治				○ (第2・4)	
江間彩子		○※ (第1・3)			

※平成30年10月から休診

【都留クリニック】 場 所 都留児童相談所2階
 管 理 者 片山 知哉
 診療時間 午前9時30分から午後0時30分

	月	火	水	木	金
片山知哉					○
金重紅美子			○		

2 診療状況

(1) 受診者総数推移

(単位：件)

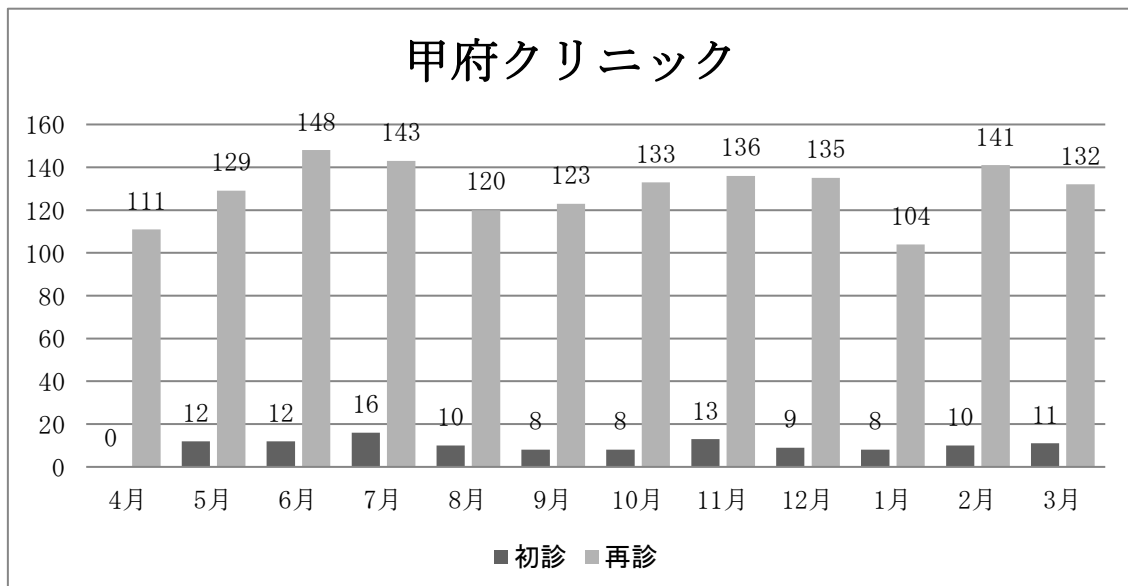
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
初診	278	296	302	218	215	257	198	163
再診	1,120	1,469	1,655	1,712	1,877	2,021	2,120	1,977
ショートケア	10	43	28	22	13	21	28	23
合計	1,408	1,808	1,985	1,952	2,105	2,299	2,346	2,163

(2) 受診者と診療形態

【甲府クリニック】

(単位：件)

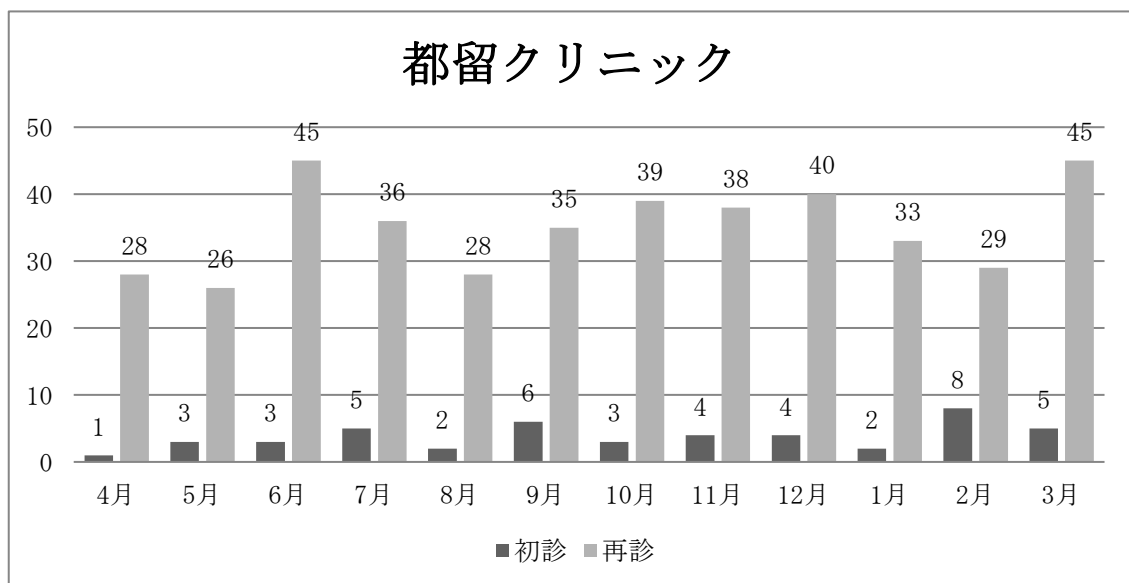
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初診		12	12	16	10	8	8	13	9	8	10	11
再診	111	129	148	143	120	123	133	136	135	104	141	132
合計	111	141	160	159	130	131	141	149	144	112	151	143



【都留クリニック】

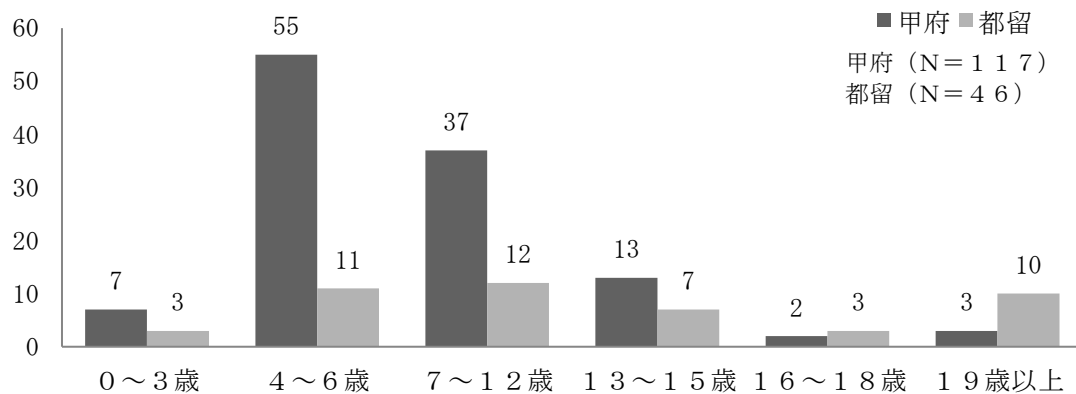
(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初診	1	3	3	5	2	6	3	4	4	2	8	5
再診	28	26	45	36	28	35	39	38	40	33	29	45
合計	29	29	48	41	30	41	42	42	44	35	37	50



(3) 年度初診者の状況

甲府・都留クリニック 年齢帯別内訳



診断分類別割合

(単位：人・%)

		甲府		都留		合計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
心理的発達の障害 (F8)	広汎性発達障害 (F84)	81	69.2	24	52.2	105	64.4
	学習障害 (F81)	2	1.7	2	4.4	4	2.5
	その他						
小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害 (F9)	注意欠如多動性障害 (F90)	3	2.6	2	4.4	5	3.1
	その他	18	15.4	10	21.7	28	17.2
精神遅滞 (F7)		8	6.8	2	4.4	10	6.1
精神及び行動の障害 (F6)		1	0.9	1	2.2	2	1.2
神経症性障害 (F4)		4	3.4	2	4.4	6	3.7
統合失調症圏 (F2)				1	2.2	1	0.6
気分障害 (F3)				1	2.2	1	0.6
生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 (F5)				1	2.2	1	0.6
診断保留							
その他							
合計		117	100.0	46	100.0	163	100.0

*統計処理に当たって、複数の診断名がある場合には一診断名とし、発達障害の診断を優先した。優先順位は、広汎性発達障害＞注意欠如多動性障害＞精神遅滞＞統合失調症・気分障害＞適応障害・摂食障害である。

*小数第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にならない。

3 発達障害医療支援体制整備事業

発達障害の早期把握・早期支援を行うため、発達障害のある子どもが地域で安心して医療を受けることができるよう、こころの発達総合支援センターを中心とした医療ネットワークの構築と地域の小児科医を対象とした人材育成を行った。

【山梨県子どもの発達を考える医療連携会議の開催】

- ・参加者：県内の小児科医25名
- ・内容：診療における現状・課題の整理及び共有
症例検討を通じた小児科医の人材育成
診療マニュアルの活用の促進

診療連携パスの運用と評価・見直し

こころの発達総合支援センターを中心とした診療ネットワークの検討

- ・実績：第1回 平成30年 7月11日（水）午後7時～8時45分
- 第2回 平成30年 9月 5日（水）午後7時～8時45分
- 第3回 平成30年11月14日（水）午後7時～8時45分
- 第4回 平成31年 1月16日（水）午後7時～8時45分

4 ショートケア

こころの問題や発達特性などを持ち、不登校等社会に適応しにくい状況をきたす対象者に対して、心身の健康維持を図ること、社会生活を営む上で必要な生活技能や適応能力の獲得と向上を図ることを目的として行った。

(1) 対象

当センター甲府クリニックに通院中で、かつ、医師が必要と認めた者

(2) ねらい

長期的な治療プログラムとして位置づけ、安心して参加できる社会的な場を広げることとそのきっかけづくり

(3) 内容

本人向けプログラムと家族講座の実施

【本人向けプログラム】

- ・身体プログラム：呼吸法、ストレッチ、ヨガほか
- ・ソーシャルプログラム：創作、季節イベント、ゲーム、コミュニケーションスキルほか

【家族講座】

- ・テーマ：体調管理（睡眠、栄養、運動）、生活管理（生活設計、家族関係）、将来に向けて（情報収集のしかた、本人との相談の進め方）

【実績】

(単位：回・人)

月1回 月曜日 13:00～16:00	実施期間	実施回数	参加者数	延参加者数
	平成30年6月～ 平成31年2月	8	4	23

地域支援

1 市町村療育支援開発事業

年齢や障害特性に応じた支援プログラムを開発し、幼児期から成人期までの支援を行った。

(1) 幼児集団療育

子どもが楽しい集団活動を体験するとともに、保護者が子どもの発達の特徴を理解し子どもに合った対応方法を知ることや、保護者同士の情報共有等を目的に、幼児集団療育を実施した。併せて、支援プログラムの開発を行うとともに、市町村保健師や保育士・幼稚園教諭等の支援者の見学を受け入れ、研修の場とした。

【ころころグループ】

- ・対 象：当センターに来所している幼児とその保護者で、集団活動に参加希望があり、参加目的を共有でき、見学者の受け入れを理解できる保護者
- ・ねらい：子どもの発達の特徴への気づき及び子育て支援、集団場面における発達評価、市町村モデルのプログラム開発を行う。
- ・内 容：親子参加型療育と親ミーティング
- ・回 数：1コース7回 年4コース

・実 績

(単位：回・組)

	実施期間	実施回数	参加者数 (親子数)	延参加者数 (延親子数)
1クール	平成30年6月20日 ～8月10日	7	5	35
2クール	平成30年6月20日 ～8月10日	7	5	30
年長1クール	平成30年5月2日 ～6月15日	7	4	34
年長2クール	平成31年1月16日 ～3月1日	7	4	39

【ぴよんぴよんグループ】

- ・対 象：ころころグループに参加した幼児とその保護者で、引き続き参加希望があり、参加目的を共有でき、見学者の受け入れを理解できる保護者
- ・ねらい：継続的な発達評価と子育て支援、支援機関・者の人材育成
- ・内 容：親子参加型療育と親ミーティング

・回数：年5回

・実績

(単位：組)

	実施日	参加者数(親子数)
1回目	平成30年10月5日	4
2回目	平成30年11月2日	5
3回目	平成30年12月7日	4
4回目	平成31年1月11日	6
5回目	平成31年1月25日	6

【わくわくグループ】

・対象：ころころグループに参加したことのある年長児とその保護者または昨年度わくわくグループに参加した現在小学校1年生の子どもとその保護者

・ねらい：就学・就学後の支援

・内容：《交流イベント》保護者の交流会
《短期療育グループ》親ミーティング

・回数：交流イベント1回 短期療育グループ 1コース3回

・実績

(単位：日・組)

	実施期間	実施回数	参加者数 (親子数)	延参加者数 (延親子数)
交流会	平成30年8月1日	1	18	18
1クール	平成30年11月14日 ～11月28日	3	14	48

【幼児集団療育への見学受け入れ】

・対象：関係機関職員

・ねらい：技術支援

・内容：療育グループの見学参加

・実績

(単位：人)

延人数	主な見学者
16	市町村保健師、心理士、保育士

(2) 成人期集団療育（発達障害者成人期就労準備性向上プログラム）

発達特性を持つ本人たちが就労を目指すにあたり、必要な知識を得たり同世代の相互交渉を経験したりする場として、講座を実施した。

また、家族向けに講座を実施し、正しい理解や特性に合った支援について学ぶ場を提供した。

【キャリアプラン講座（高校生対象講座、専門学生・大学生対象講座）】

- ・対 象：個別相談を継続している中等・高等教育機関在籍の学生
- ・ねらい：就労準備性の向上及び自己理解の促進
- ・内 容：講義・グループワーク
- ・実 績

(単位：回・人)

実施期間	対象	実施回数	実参加者数	延べ参加者数
平成 30 年 8 月 14 日 ～8 月 16 日	高校生	3	6	11

※ 専門学生・大学生対象講座は、参加者の応募がなく実施しなかった。

【保護者向け就労準備講座】

- ・対 象：個別相談を継続している中等教育機関在籍学生の保護者
- ・ねらい：就労準備性を理解し家族の役割を考える
- ・内 容：講義・個別ワーク
- ・実 績

(単位：回・人)

実施日	実施回数	参加者数
平成 31 年 2 月 28 日	1	15

(3) ペアレントサポートプログラム

- ・対 象：子ども（小学校低～中学年）のこころの問題や発達障害等で養育上の悩みを抱える保護者及び市町村保健師等で親支援に関わっている者。
- ・ねらい：子どもへの理解を深め、自ら問題に対応できる具体的な育児方法を学ぶことにより、子どもとの心地よい関係をつくり、二次的な問題を予防することを目的とする。また、人材育成とペアレントサポートプログラムの開発・検討を行う場として、一部地域の関係職員への公開の研修も兼ねる。
- ・内 容：子どもの行動分類、問題解決スキル、ストレスマネジメントなどを含むペアワークを取り入れたグループワーク
- ・講 師：ハーティック研究所 代表 高山恵子先生

・実績

(単位：人)

実施日	内容	参加者数	
		保護者	関係職員
平成 30 年 6 月 27 日	子どもとの心地よい関係をつくるために	5	12
平成 30 年 7 月 25 日	コミュニケーションのコツと心が楽になる考え方 (アンガーマネジメント)	5	11
平成 30 年 9 月 12 日	気持ちをつたえる伝え方・ふりかえりとセルフトーク	3	10

2 技術支援

(1) 関係者コンサルテーション

医療、保健、福祉、教育、就労等の支援関係者への助言やコンサルテーション等を通して、地域の環境調整や技術支援を行った。

(単位：件)

関係機関別									合計
保育所・幼稚園	小・中・高等学校	特別支援学校	専門学校・大学	福祉関係機関 入所・通所施設	就労関係機関	行政機関	企業	その他	
29	131	6	4	47	151	167	11	9	555

※その他は、医療機関、団体等

(2) 市町村療育支援

発達障害児等の早期発見、早期支援体制を構築するため、保健福祉事務所が開催する研究会等に参加し、情報提供や技術支援を行った。

(単位：人)

開催日	内容	参加者数
平成 30 年 12 月 5 日	峡南保健所管内保健師定例研究会 「当センターの幼児集団療育やペアレント・サポート・プログラムにおける発達障害児と家族への支援について」	40
平成 31 年 1 月 7 日	中北保健所管内母子保健研修会 (対人支援活動実践能力向上研修) 「事例検討会 (周産期支援中心とした 2 事例)」	21

(3) 発達障害者支援センター連絡協議会

地域の発達障害児（者）に対する総合的なサービスを提供するため、関係機関（医療・保健・教育・福祉等）の取り組みや課題について共有し、効果的な連携等の在り方について協議した。

開催日	参加機関	協議事項
平成 30 年 6 月 25 日	51 機関	・平成 29 年度事業報告及び平成 30 年度運営方針について ・支援年齢帯別情報交換【幼児・学齢・成人（高校生を含む）】 など

(4) 地域支援体制サポート事業

発達障害者地域支援マネージャーを配置し、市町村、保育所、学校、障害者相談支援事業所等が発達障害（児）者の特性に沿った支援ができるよう、地域支援機能の強化を図った。

【発達障害者支援検討会議への参加】

各保健福祉事務所と連携し、圏域内の支援体制の整備を図るため、圏域やモデル市町村開催の会議に出席した。

開催日	会議名
平成 30 年 5 月 15 日	第 1 回発達障害者支援担当者会議
平成 30 年 7 月 12 日	第 1 回峡南地域発達障害児連携支援研修会
平成 30 年 8 月 2 日	第 1 回峡東地域発達障害者支援検討会議
平成 30 年 9 月 20 日	中北地域発達障害者支援検討会議
平成 30 年 10 月 15 日	第 2 回発達障害者支援担当者会議
平成 30 年 11 月 26 日	富士・東部圏域発達障害者支援検討会議
平成 30 年 12 月 25 日	第 2 回峡東地域発達障害者支援検討会議
平成 31 年 2 月 5 日	第 2 回峡南地域発達障害児連携支援研修会
平成 31 年 2 月 18 日	第 3 回発達障害者支援担当者会議
平成 31 年 3 月 1 日	第 3 回峡東地域発達障害者支援検討会議

【発達障害者サポーターの養成・派遣】

- ・目的：学校不適應などにより社会参加できていない発達障害のある人に対し、「発達障害者サポーター」を派遣し、社会参加・就労準備の機会を作る。
- ・サポーター養成対象者：山梨県内の教育、福祉、心理などを専攻している短大
大学、大学院生、または社会人で障害福祉に関して一定レベルの知識・理解を有している者
- ・サポーター派遣対象者：こころの発達総合支援センターの相談者で、相談相手を必要としている思春期から青年期ケースで当事業の必要性が認められる者
- ・内容：サポーター養成及び派遣
- ・実績：サポーター養成（県内の教育、福祉などを専攻している大学生等）

新規 11名（大学生 11 / 男性 2、女性 9）

継続 0名

研修

（単位：人）

開催日	内容	講師	参加者数
平成 31 年 2 月 12 日	発達障害者サポーター事業の説明 講義「思春期・青年期の理解」	スーパーバイザー 心理臨床オフィス・ ルーエ 深沢 孝之	20

サポーター派遣

当センターの学齡期後期から青年期ケース 0 名（派遣対象者なし）

(5) 関係機関との連絡調整会議

当センター主催の会議において、情報交換や事例検討を行った。

【総合教育センター特別支援教育部との連絡調整・支援検討会議】

開催日	内容
平成 30 年 5 月 8 日	所属概要について情報交換
平成 30 年 7 月 10 日	学習困難児の支援に関する講義
平成 30 年 10 月 9 日	学習困難児の支援に関する講義と事例検討
平成 30 年 12 月 11 日	学習困難児の支援に関する事例検討
平成 30 年 2 月 12 日	機関連携のあり方

【就労支援関係機関との相談・支援定例会議】

開催日	参加機関	内容
平成 31 年 2 月 20 日	9 機関	(1) 情報交換・協議 ①平成 29 年度成人期支援状況について ②各機関の現状について (2) 報告「リーフレット『就労準備性と発達障害・精神障害』を利用した発達障害者への就労支援の現状と課題」

【子どもの心の診療に関わる医療と福祉の連携会議】

開催日	参加機関	内容
平成 30 年 5 月 25 日	7 機関	情報交換と連絡調整
平成 30 年 11 月 9 日	7 機関	情報交換と連絡調整
平成 31 年 2 月 22 日	7 機関	情報交換と連絡調整

(6) 会議等への参加

【教育関係】

教育機関係者との事例検討等を踏まえた連携会議は、年間を通じて随時行われ、それぞれの担当者が出席した。

【就労関係】

就労機関係者との個別の事例検討等を踏まえた連携会議は、年間を通じて随時行われ、それぞれの担当者が出席した。

開催日	会議名
平成 30 年 8 月 2 日	第 1 回発達障害者雇用支援連絡協議会
平成 30 年 10 月 26 日	第 1 回雇用移行推進連絡会議
平成 31 年 3 月 5 日	第 2 回雇用移行推進連絡会議

【医療関係】

「子どもの心の診療ネットワーク事業」の会議に出席した。

開催日	会議名
平成 31 年 1 月 18 日	子どもの心の診療ネットワーク事業連絡会議

【発達障害者支援センター関係】

全国及び関東ブロックの会議や役員会等に出席した。

開催日	会議名
平成 30 年 6 月 1、2 日	発達障害者支援センター全国連絡協議会 第 1 回発達障害者支援センター関東ブロック連絡会
平成 30 年 10 月 26、27 日	第 2 回発達障害者支援センター関東ブロック連絡会 (山梨県甲府市にて主催開催)
平成 31 年 1 月 11 日	第 3 回役員会・第 2 回懇談会
平成 31 年 2 月 1 日	第 3 回発達障害者支援センター関東ブロック連絡会

研修・普及

1 人材育成

(1) 子どもの心の診療関係者の研修事業

【診療対応力向上研修】(小児科医や精神科医等専門職を対象)

(単位：人)

日時	内容	講師	参加者数
平成 30 年 10 月 19 日	発達障害の子どもの小 集団療育－幼児期に行 う意義と効果－	相模女子大学 人間社会学部 子育て支援センター 日戸由刈	59
平成 30 年 12 月 14 日	発達性ディスレクシア	上智大学 言語科学研究科 言語聴覚研究コース 原恵子	48

【子どもの心の総合支援研修】(子どもの心の診療に関わる専門職を対象)

(単位：人)

日時	内容	講師	参加者数
平成 30 年 8 月 8 日	言語発達とディスレク シア	上智大学 言語科学研究科 言語聴覚研究コース 原恵子	62

【児童思春期精神医学専門研修】(小児科医、精神科医、関係専門職を対象)

・児童精神医学セミナー

週 1 回こころの発達総合支援センター内で開催した。

内容は所長による精神医学の講義、および症例検討会。症例検討会のうち数回は外部からスーパーバイザー(市川宏伸先生、本田秀夫先生)を招いて行った。

・臨床研修受け入れ

医学部学生、臨床研修医並びに小児科医の研修の受け入れ。

山梨大学医学部臨床研修医：1名 1回/年

山梨県立中央病院研修医：1名 1回/年

山梨大学医学部小児科：1名 1～2回/月

一宮温泉病院小児科：1名 1回/月

【家族支援研修会】

(単位：人)

日時	内容	講師	参加者数
平成30年12月14日	アタッチメントについて	ハーティック研究所 代表 高山恵子先生	54

(2) 発達障害研修事業 (発達障害児者の支援に関わる専門職を対象)

【発達障害基礎研修】

(単位：人)

日時	内容	講師	参加者数
平成30年8月6、24日 (1コース2日間)	講義・質疑応答 「発達的气になる子の早期把握早期支援に関する基礎研修」 ※健康増進課主催研修(母子保健従事者研修会)への協力	所長及び幼児スタッフ こころのサポートセンター・ネストやまなし 所長 中嶋彩	延 65
平成30年12月17日と平成31年1月7日又は2月4日 (1コース2回)	講義・先進地見学・質疑応答 「発達障害児の集団療育」	幼児スタッフ こころのサポートセンター・ネストやまなし 所長 中嶋彩ほか	延 61

【発達障害専門研修】

(単位：人)

日時	内容	講師	参加者数
平成30年12月3日	講義・質疑応答 「社会性の発達－幼児期から学齢期を中心に－」 「自閉スペクトラムの発達と支援原理」「自閉スペクトラムの集団療育」	相模女子大学 人間社会学部 子育て支援センター 教授 日戸由刈	81

【発達障害就労支援研修】

(単位：人)

日時	内容	講師	参加者数
平成30年8月20日	講義・質疑応答 「配慮の『合理性』と能力評価をめぐる課題」	東京大学大学院 教育学研究科附属 バリアフリー教育開発 研究センター 准教授 星加良司	42

(3) 講師派遣

関係機関からの要請に応じて、当センターのスタッフを講師として派遣した。

(単位：箇所・人)

派遣先	箇所数	延べ参加者数
教育関係	4	451
保健関係	4	93
福祉機関	5	525
医療機関	2	250
その他	6	215
合計	21	1,534

2 調査研究

(1) 平成30年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野））「発達障害児の原因、疫学に関する情報のデータベース構築のための研究」

発達障害児に関する情報のデータベース構築のための研究の基礎となる実態把握のため、平成25年度から続けている発達障害の疫学調査を、山梨市の小学校4年生から6年生を対象として行った。

(2) こころの発達総合支援センターの就労支援～就労準備性の整理と活用～

就労に際して必要となる能力である「就労準備性」を整理してチェックリストにし、当センター利用中の高校生以上の方を対象にこのリストを用いて現状を評価、分析した。その結果、地域生活の充実や一般的労働能力が中心課題であるとともに、家庭内での家事等役割分担について、幼児期や学齢期からの積み重ねが必要であると示唆された。

：平成30年度山梨県社会福祉研究発表会

3 広報・普及

(1) パンフレット等印刷物の発行

こころの発達総合支援センターのパンフレットを作成し、各関係機関や研修等の機会に配布している。

また、こころの発達総合支援センターのホームページの利用に関する案内や一般向けの研修案内、マニュアル（こどもの精神発達に関する診療マニュアル、幼児健診項目の考え方と発達段階表、就労準備性と発達障害・精神障害）、平成28年度業務概要等を掲載した。

(2) 図書及び視聴覚教材の貸出

【図書】

平成23年4月より、主に保護者や関係機関の職員、学生等を対象に図書の貸し出しを行っている。

全蔵書数は640冊であり、平成30年度の貸出実績は延べ7冊であった。

(単位：冊)

1 分類	概論・事典・法律	128
2 分類	支援・指導・教育	231
3 分類	就労	7
4 分類	心理・アセスメント・診断	64
5 分類	雑誌4種	31
6 分類	その他	179
合計		640

平成30年度新規購入図書 20冊

月別貸出数

(単位：冊)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2	2		1	1			1				7

【視聴覚教材】

発達障害関連DVD 13本